

2017年3月期 第2四半期決算資料

2016年10月14日



ゲンダイエージェンシー株式会社

GENDAI AGENCY Inc.

P3 第1四半期 損益計算書(連結)

P4 事業の種類別セグメント

【広告事業】

P5 第2四半期 損益計算書

P6 四半期売上高の推移

P7 品目別売上高の推移

P8 顧客の状況

P9 従業員の状況

【不動産事業】

P10 第2四半期 損益計算書

P11 第2四半期 連結貸借対照表

P12 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

P13 2017年3月期 連結業績予想と進捗状況

【Topics】

P14 自己株式の取得結果について

P15 子会社設立のお知らせ

(単位：百万円)

	当2Q累計期間	構成比	前2Q累計期間	構成比	前年同期比
売上高	8,056	100.0%	8,294	100.0%	97.1%
営業利益	628	7.8%	519	6.3%	120.9%
経常利益	594	7.4%	525	6.3%	113.2%
純利益	397	4.9%	333	4.0%	119.2%

外部環境＞

- ユーザー参加頻度や投資金額減少 = ホール業界の収益は依然厳しい状況
- 新規出店は減少傾向、一方で同業ホール法人による買収活発化 = 業界再編の流れ
- 本年末までの撤去台問題 = 収益面の先行き懸念

当社の取組み＞

- ✓ インターネットメディア拡販、異業種プリンティング事業拡大 = 収益構造の転換
- ✓ 収益性改善のための固定費抑制

結果＞

- ✓ 売上高の前年同期比は2.9%減だったものの、営業利益は同20.9%増、経常利益は同13.2%増、四半期純利益は同19.2%増となり、大幅な増益となりました。

□当第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	7,943	72	40	-	8,056
セグメント利益	775	35	△6	△174	628

□前年同期比

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	△237	△5	+4	-	△238
セグメント利益	+91	+2	+6	+11	+109

✓ 前期に引き続き、顧客の広告費の削減傾向が見受けられたことに加え、5月に開催された伊勢志摩サミットの影響もあり、当2Q累計期間の広告事業の売上高は前年同期比で237百万円下回り、連結ベースで△238百万円となった一方で、前年に比べてグループ全体で固定費の削減が進んだこともあり、セグメント利益は+109百万円となりました。

(単位：百万円)

広告事業	当2Q累計期間	前2Q累計期間	前年同期比
売上高	7,943	8,180	97.1%
営業費用	7,168	7,496	95.6%
セグメント利益	775	684	113.3%

外部環境>

- ホール企業の収益性悪化による広告費削減傾向 = ホール広告市場は低迷
- 本年5月伊勢志摩サミット開催 = 約1ヶ月間の全国一斉新台入替自粛

当社の取組み>

- ✓ 継続的な新規大手顧客の開拓
- ✓ パチ7やリスティング広告販売、異業種プリンティング営業強化
- ✓ 営業拠点集約、受注プロセス見直し・合理化による固定費の抑制

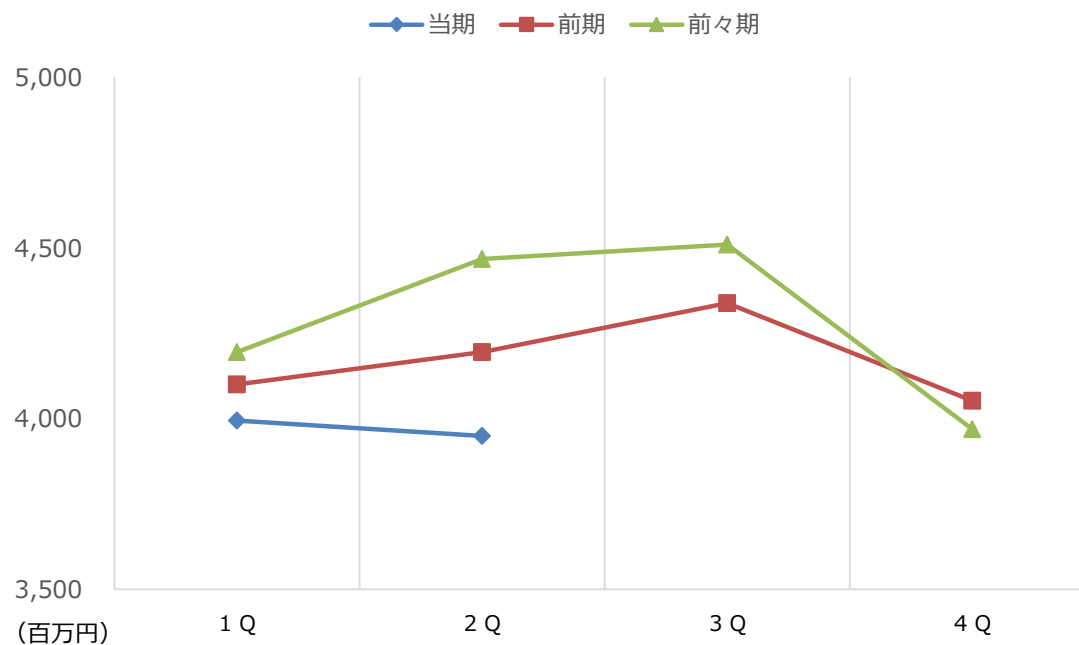
結果>

- ✓ 売上高の前年同期比は、減少幅を最小限に食い止めることが出来ました。セグメント利益は固定費の削減効果が寄与し、前年同期比で13.3%増加しました。

四半期売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期計
当期	3,994	3,949	-	-	7,943
前期	4,100	4,194	4,338	4,052	16,684
前々期	4,194	4,467	4,509	3,968	17,138

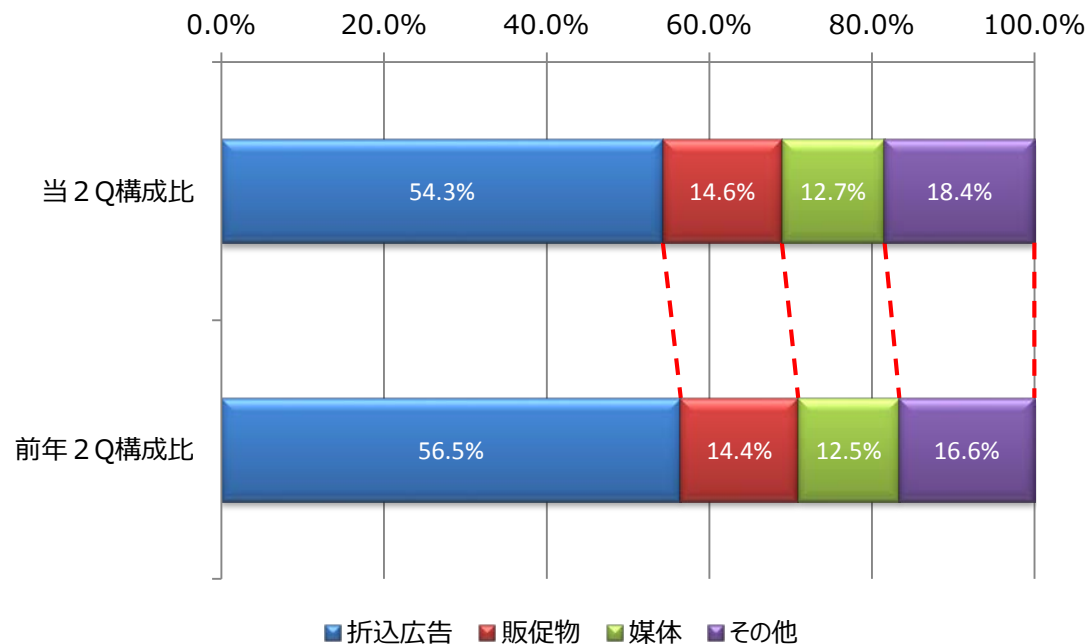


✓ 当2Qにおける広告事業の売上高は前年同期に比べ、245百万円減少しました。
 新規出店案件の受注額は前年同様に低調に推移したことに加えて、主として大手法人の広告費抑制により、受注は伸び悩みました。

品目別売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	当2Q累計期間	構成比	前2Q累計期間	構成比	前年同期比
折込広告	4,313	54.3%	4,622	56.5%	93.3%
販促物	1,161	14.6%	1,179	14.4%	98.5%
媒体	1,005	12.7%	1,019	12.5%	98.6%
その他	1,462	18.4%	1,359	16.6%	107.6%
売上高合計	7,943	100.0%	8,180	100.0%	97.1%



✓ プリンティング事業が折込広告売上に寄与しましたが、入替自粛に伴う入替告知広告需要の減少により、折込広告の前年同期比は309百万円減少し、構成比も2.2ポイント低下しました。

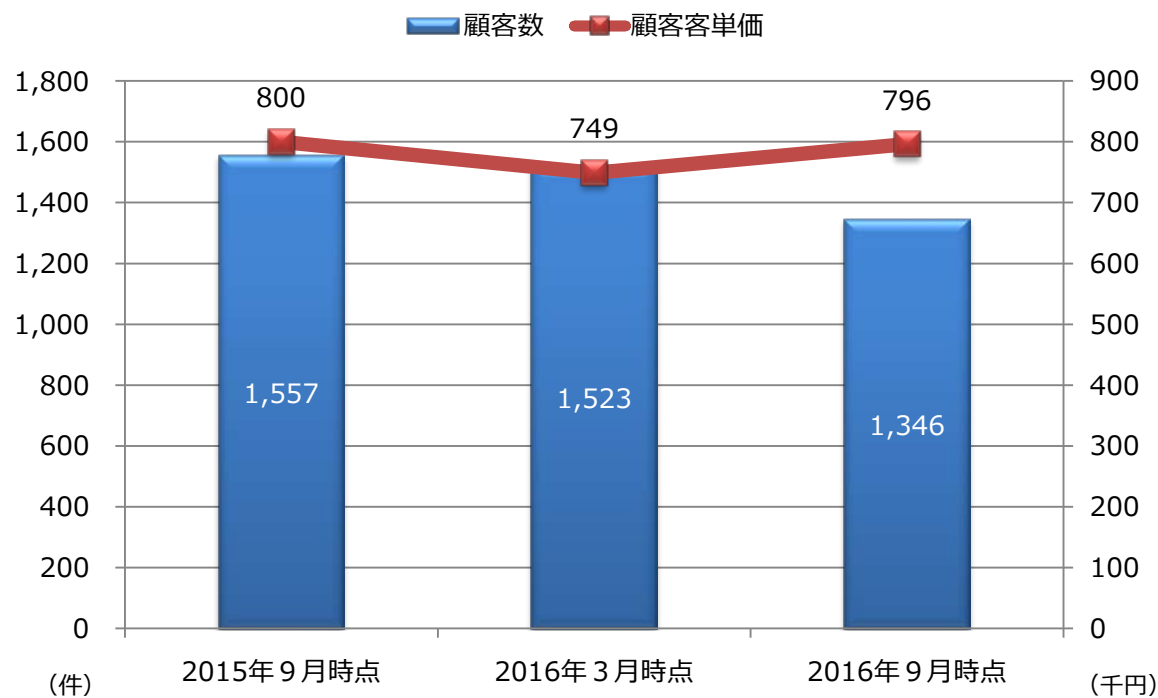
✓ インターネット広告等を含む、その他の区分については売上・構成比ともに前年同期を上回っています。

顧客の状況(広告事業)

- ✓ 収益性を意識して営業活動を行ったことに加え、大手グループ法人の取り扱いが一時的に少なかったこともあり、9月単月で比較した顧客数は前年同月比で211件減少しました。
- ✓ 顧客単価は概ね横ばいで推移しています。

稼働顧客	2015年9月時点	2016年3月時点	2016年9月時点
顧客数(件) ※1	1,557	1,523	1,346
顧客客単価(千円) ※2	800	749	796

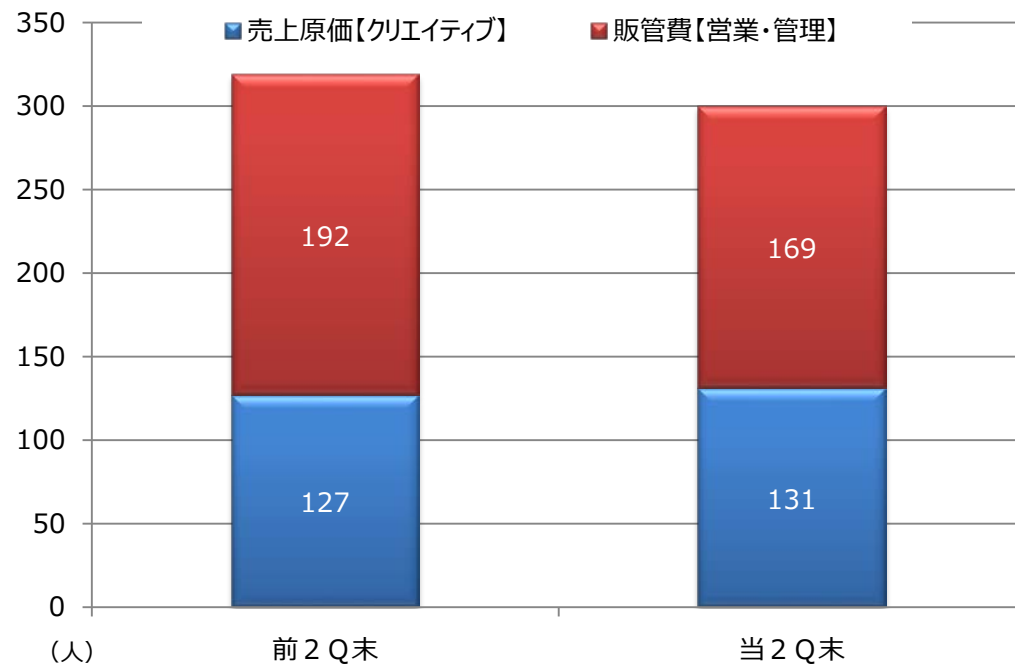
※1：数値は単月実績です。 ※2：月額取引50千円以上の取引先を顧客としています



従業員の状況(広告事業)

(単位：人)

	前2Q末	当2Q末
売上原価【クリエイティブ】	127	131
販管費【営業・管理】	192	169
広告事業計	319	300



✓新卒入社3名がいましたが、営業拠点の集約や業務効率の向上のための各種施策を実施した結果、当2Q末の従業員数は前2Q末と比較して19名減少しました。

第2四半期 損益計算書(不動産事業)

(単位：百万円)

不動産事業	当2Q累計期間	前2Q累計期間	前年同期比
売上高	72	77	94.2%
営業費用	37	44	84.1%
セグメント利益	35	33	104.0%

- ✓ 当第2Qにおいては、既契約で継続中の2件の他に、新たな売買・仲介案件はありませんでした。
- ✓ 事業運営の合理化を推進したことで、売上高は72百万円(前年同期比5.8%減)、セグメント利益は固定費の削減があり、35百万円(同4.0%増加)となりました。

第2四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (A)	当2Q末 (B)	差額 (B) - (A)
現金及び預金	3,507	3,282	△224
受取手形・売掛金	2,289	1,979	△310
その他流動資産	333	250	△83
有形固定資産	946	950	4
無形固定資産	123	106	△17
投資その他資産	827	938	111
資産合計	8,026	7,507	△519
支払手形・買掛金	1,408	1,212	△196
短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）	290	240	△50
未払法人税等	213	229	16
その他流動負債	248	232	△16
長期借入金	500	430	△70
その他固定負債	18	21	3
負債合計	2,678	2,366	△312
株主資本	5,317	5,133	△184
その他	31	8	△23
純資産合計	5,348	5,141	△206
負債・純資産合計	8,026	7,507	△519

①納税、配当、自己株式取得による減少

②取引高の減少の影響

②取引高の減少の影響

③借入金△120百万円

④四半期純利益+397百万円
利益配当△235百万円
自己株式取得△345百万円

第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期	2Q
税引前利益	861	594
営業活動によるキャッシュ・フロー	848	643
投資活動によるキャッシュ・フロー	△260	△126
財務活動によるキャッシュ・フロー	△631	△700
現金及び現金同等物の期末残高	3,513	3,287

✓ 当第2Qの現金及び現金同等物は
△225百万円減少し、3,287百万円となりました。

+ 税引前利益	594	
+ 減価償却費	50	
+ 売上債権の減少	310	
+ その他	85	
		- 仕入債務の減少 196
		- 法人税等の支払 196
		- その他 6
営業活動によるキャッシュ・フロー	+643	
		- 投資有価証券取得による支出 162
		- その他投資 77
		- その他 51
+ 投資有価証券の売却及び償還による収入	150	
+ その他収入	16	
		投資活動によるキャッシュ・フロー -126
		- 長期借入金返済による支出 120
		- 自己株式取得による支出 345
		- 配当金の支出 235
		財務活動によるキャッシュ・フロー -700

2017年3月期 連結業績予想と進捗状況

(単位：百万円)

	2017年3月期 2Q実績	前回発表 2017年3月期 2Q累計予想	進捗率	期初発表 2017年3月期 通期予想	進捗率
売上高	8,056	7,600	106.0%	14,600	55.2%
営業利益	628	500	125.6%	1,040	60.4%
経常利益	594	500	118.8%	1,040	57.1%
純利益	397	330	120.3%	700	56.7%

通期連結業績について>

第2四半期連結累計期間における業績は、前回の上方修正予想(平成28年7月15日発表)を上回って推移しておりますが、全国のパチンコホールにおいて、本年12月末を期限として、「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機」の撤去が予定されており、主力のパチンコホール広告を取り巻く事業環境の不確実性を鑑み、現時点では期初に公表した通期業績予想を修正しておりません。

自己株式の取得結果について

✓ 株主還元の一環として、平成28年6月10日開催の取締役会にて、自己株式の取得に関する決議を行い、取得が完了しました。

決議の内容(ご参考)

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| (1)取得対象株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2)取得しうる株式の数 | 700,000株(上限) |
| | (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.46%) |
| (3)株式の取得価額の総額 | 350,000,000円(上限) |
| (4)取得期間 | 平成28年6月13日から平成28年9月30日まで |



上記の決議に基づき、買い付けた自己株式の累計

- | | |
|----------|--------------|
| (1)買付株式数 | 650,000株 |
| (2)買付総額 | 345,067,600円 |

子会社設立のお知らせ

✓ 当社は、平成28年10月14日開催の取締役会において、下記のとおり、子会社を設立することを決議いたしました。

1. 子会社設立の経緯と目的> 当社グループの主力事業であるパチンコホール向け広告事業においては、クライアントであるパチンコホール企業各社の広告費支出抑制の影響を主因として、受注のなだらかな減少が続く厳しい事業環境にあります。こうした環境下において、当社グループにおいては、持続的な成長を実現するため、既存のパチンコホール向け広告事業においてオンラインメディアを主軸とする継続的な新サービスの開発と投入、パチンコ業界における新業態の開発及び他業種クライアントに対する広告関連サービスの提供を急ピッチで進めていく必要があるものと認識しております。以上の認識を踏まえて、このたび、主として、新たな事業領域における事業・業態の開発、クライアント店舗のコンバージョン案件等に対するソリューションの開発、既存事業との親和性の高い他業種向け広告関連サービスの開発等について、これらを柔軟かつ機動的に推進するグループ内ユニットが必要であると判断し、新たに子会社を設立することを決議いたしました。

2. 設立する子会社の概要>	(1) 名 称	株式会社アーク
	(2) 所 在 地	東京都新宿区西新宿3-20-2
	(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 木藤 友治(現、当社取締役)
	(4) 事 業 内 容	新サービス、新事業の調査及び開発
	(5) 資 本 金	25百万円
	(6) 設立年月日	平成28年11月中(予定)
	(7) 決 算 期	3月末日
	(8) 出 資 比 率	ゲンダイエージェンシー株式会社:100%

3. 日程> 取締役会決議日: 平成28年10月14日、新会社設立 : 平成28年11月中(予定)

4. 今後の見通し> 当社は新会社を連結子会社といたします。なお、当期の連結業績に与える影響は軽微であります。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 経営企画部 Tel.03-5358-3334